

緊急支援



4月6日、山田町。がれきが積み上がる道をいわて生協のトラックが走る。

全国から続々と到着する支援トラック

東日本大震災発生後、被害の大きかった被災地では食料・燃料が圧倒的に不足した。日本生協連は、3月11日に出発させた4台を筆頭に、4月6日までに1,170万点の物資（10tトラック633台分）を送り出した。同時に全国の生協もいち早く支援活動を開始し、4月28日までにトラック延べ1,190台、延べ3,587人が被災地に派遣された。



3月17日のみやぎ生協・国見ヶ丘店。

一刻も早く、被災者に商品を

被災地の各店舗では、列を作り食料を求める組合員・地域の人びとのため、レジの使えない中でも店を開け、商品を販売する懸命な努力があった。

- 主な記事 ●組合員・地域のために店を開け続ける
みやぎ生協・国見ヶ丘店、虹の丘店(5月号)
- 殺到する被災者の不安を取り除く
いわて生協・マリンコープDORA(5月号)
 - 商品を被災地へ、できるだけ早く！
コープふくしま 各店舗震災対策本部(5月号)



震災直後に行なわれた、いわて生協こ〜ぶ委員によるボランティア「おにぎり隊」。

炊き出しで、協同の力を発揮

避難所などでの炊き出しでは、被災地の組合員および全国の生協職員ボランティアが大きな役割を果たし続けた。

- 主な記事 ●組合員も立ち上がった！「おにぎり隊」
いわて生協(5月号)
- 生協ならではの強みを生かした炊き出し
バルシステム連合会(8月号)
 - 延べ472人で5,918食、3カ月間の弁当作りボランティア
いわて生協(11月号)



コープ共済連が全国生協の協力の下行なった訪問活動は、2カ月間にわたった。

安否確認、お見舞い活動、 共済訪問活動

組合員宅を訪れて安否確認をしながら、全国から届いたお見舞いの支援物資（タオルやお菓子など）をお届けする活動では、支援に入った全国各生協の職員も力を発揮。支援物資に添えられたメッセージに涙する組合員もいた。また、共済金・お見舞金の請求手続きを支援するための訪問活動でも同様に安否確認が行なわれ、2カ月間で全国61生協から381人が支援に入った。

- 主な記事 ●組合員に支援物資と安心をお届けするお見舞い活動
みやぎ生協(5月号)
- 全国の支援メンバーがいてこそ実現できた、訪問活動
みやぎ生協(7月号)

あらゆる組合員と 地域のために
本誌掲載記事で振り返る、この1年の支援活動

復興に向けた被災地での取り組み、そして全国の生協が駆け付けて行なう支援活動を、本誌ではこの1年間毎号レポートしてきた。時間の経過とともに変化するニーズに応え、試行錯誤しながら続けられるそれらの活動を、2011年の掲載記事から振り返ってみたい。

生活支援



コープみえが行なった写真洗浄ボランティア。



みやぎ生協が8月から運行する移動販売車「せいきょう便」。



11月、コープいしかわは陸前高田市の二つの仮設住宅で足湯などを提供した。

“生協のボランティア” だからこそ

被災した組合員のために、同じ組合員が力を尽くし、やがては被災者もボランティアに参加する。組合員同士の、生協同士の、他団体とのつながりを大切に取り組みされるその活動は、1年がたつ現在も形を変えながら続いている。

- 主な記事 ●被災地での無料巡回上映会
みやこ映画生協(10月号)
●“夏”の炊き出しボランティア
コープふくしま(9月号)
●写真洗浄ボランティア コープみえ(12月号)

買い物困難者を救え

仮設住宅入居者、あるいは津波で多くの小売店が無くなった沿岸部に住む人たちの買い物問題は深刻だ。被災地の多くの場所で移動販売車の稼働が始まり、みやぎ生協では新たに共同購入のステーションを立ち上げた。

- 主な記事 ●買い物に行けない人のために「移動販売」で商品を届ける いわて生協(5月号)
●原発30km圏内の“買い物難民”を救えー「負けないぞ!! 南相馬 市(いち)」コープふくしま(6月号)
●必要としている人がいるから——被災者への買い物支援 みやぎ生協(12月号)

仮設住宅居住者への支援

仮設住宅で暮らす方々のため、被災地では組合員が中心となり、また被災地生協と連携しながら全国の生協もお茶会などを開催している。「少しでも心を軽くしてもらえたら」と、被災者の話を真摯に聞くスタッフの思いは一つだ。

- 主な記事 ●被災地のニーズを聞いて開催 仮設住宅での「ふれあい喫茶」 みやぎ生協(10月号)
●足湯や入浴剤、合鴨鍋を提供 コープいしかわ(2012年2月号)
●仮設住宅の人たちに心なごめるふれあいの場を コープネット事業連合・さいたまコープ(2012年2月号)

仮設住宅への引っ越し支援

岩手県生協連と日本生協連が呼びかけ、避難所から仮設住宅へ移る人たちの引っ越し作業を手伝う支援も行なわれた。宅配の配送トラックを延べ267台使ったのは活動は2カ月半にわたり続けられ、23生協(事業連合・県連含む)で延べ537人、手伝った引っ越し軒数は201軒に上った。(10月号)

県外避難者への支援

県外へ避難して暮らす被災者への支援も、大きな課題だ。家族の離散、子どもの学校、就職など尽きない悩みや問題を聞き出し、ニーズを知り、不安のない生活を送ってもらうための活動、あるいはそんな方々へホッとできる楽しいひと時を提供する活動には、行政との連携も重要となる。

- 主な記事 ●避難所で発揮される生協の力 さいたまコープ(9月号)
●被災地でもお餅を食べてもらいたい 京都生協(2012年2月号)

生産者支援



6月、京都ボランティア隊は宮城県志津川でカキ養殖業の復興を支援。

事業支援



「東北仲間づくり支援」に参加し、宮古市の仮設住宅を回る、生協共立社の片桐洋平さん。

放射性物質除染の取り組み



10月16日、ボランティアによる除染作業の様子。

今こそ、生産者・消費者の絆を

多くの産直産地が甚大な被害を受けた中、生協が今後も安全・安心な食材を組合員に届けるために、産地復興・生産者支援は急務だ。消費者とのつながりも生み出す、生協ならではの取り組みが行なわれている。

- 主な記事 ●被災した産直生産者をボランティアで支援 京都生協 生協共立社(8月号)
●産直生産者2,500人と取り組む「食のみやぎ復興ネットワーク」 みやぎ生協(10月号)

初めての試み 「東北仲間づくり支援」

事業は4週間停止し、利用組合員は避難したり亡くなったことで2万人の減少。かつてない危機的状況に、被災地3生協での「仲間づくり活動」を支援する取り組みが行なわれた。6月6日～8月5日の2カ月間にわたり、28生協・95人が支援に入り、2,073人の加入を得るといった大きな実績を挙げた。(11月号)

放射性物質の除染を ボランティアで

除染作業のサポートをするボランティアを募集して窓口となり、伊達市と共に除染活動に取り組むコープふくしま。ホームページで呼びかけて結成されたボランティア組織は500人にもなった。除染に必要な道具を装備したトラックを町内会に貸し出し、除染作業の重要性を知らせることに努めながら、今後も活動を続けていく。(10月号・2012年1月号)